

平成30年度 学校経営計画

練馬区立大泉第二中学校
校長 関 基 雄

1 本校の教育目標

1. よく考える人になろう
2. 進んで行動する人になろう
3. 責任感の強い人になろう
4. 豊かな心をもった人になろう

練馬区教育委員会の教育目標、新学習指導要領に基づき、教職員の日々の創意と努力、保護者や地域の支えにより、61年間にわたり営々として築かれてきた学校の特色や伝統を生かして、この4つの教育目標の達成を目指すものである。

2 学校経営ビジョン 「開校61周年 新たなる伝統への1期生」

(1) 目指す生徒像 「社会に役立つ人になる」

1. よく考える人になろう
 - 基礎・基本の学習内容を確実に身に付ける生徒（知識・技能）
 - 自ら学び、自ら考え、意欲的に学習に取り組む生徒（学ぶ意欲）
 - 学ぶための力を身に付け、学びを活用できる生徒（学び方、思考力・判断力・表現力）
2. 進んで行動する人になろう
 - 規範意識や社会性を身に付け、社会の一員として正しく行動できる生徒
 - 将来の夢や希望をもち目標をもって、たくましく生きていける生徒
3. 責任感の強い人になろう
 - 集団の一員としての役割や責任を果たす生徒
 - 嫌なことから逃げず、何事にもねばり強くやりぬく生徒
4. 豊かな心をもった人になろう
 - 自己理解に努め、自らの生き方に自己肯定感をもって決定できる生徒
 - 他人のよさや違いを認め、相手の立場や気持ちを考えられる生徒
 - 心身を鍛え、自らの心身を健康・安全に保とうとする生徒

(2) 目指す学校像「生徒が夢・希望を叶えられる学校」

1. 人権教育および豊かな心を育成する教育の推進を行い、「生徒が通いたい」「保護者が通わせたい」学校を目指し、地域と協働して公立の責任が果たせる学校を創造する。
学校評価の機会（授業公開や学校行事等でのアンケート）を幅広く設定し、生徒・保護者・地域の期待や要望を受け止め、公立学校の使命を果たしていく。
2. 各教科の基礎的な学力を身につけさせるために、「わかる授業」「わからせる授業」を工夫する。
さらに、対話的、主体的で深い学びを行うために、積極的に授業改善に取り組み、個々の生徒の実態に応じた学習を意図的、計画的に組織していく。
授業評価などを通して、現状の把握に努め、常に授業力の向上に努めていく。
3. 情報開示を積極的に行い、学校の責任説明を果たすとともに、保護者・地域から信頼される開かれた学校作りを進めていく。学級・学年・学校便り・ホームページ及び学校評議員会等を活用し、情報発信を積極的に行い、学校支援体制を確立していく。また、保護者会や学校行事を工夫し、地域や保護者の学校参観者数の増大を目指す。

(3) 目指す教師像「生徒の力を伸ばせる教師・教師が変われば生徒が変わる」

- ① 生徒の利益第一の視点で、使命感と学校経営への参画意識をもち、サービスの厳正に努める教師
→ 教育公務員として、生徒の人格形成に大きな影響を与える職務に携る者として、その使命と職責を深く自覚し、服務規律の厳正に務める。
- ② 生徒との関わりを重視し常に生徒理解に努め信頼関係を築き、生徒の個性とよさを伸ばし、生徒に達成感や自己肯定感をもたせ、最後までねばり強く生徒の指導、支援に努める教師
→ 生徒理解が指導の基本である。生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の教師及び組織を通して効果的に生徒指導、学習指導に生かしていくことが大切である。日々の生徒との信頼関係を築き、善悪の判断をもたせ、けじめをつけさせ、苦しくとも粘り強く指導し、生徒の個性の伸長や主体的態度の育成を目指す。
- ③ 危機意識、当事者意識をもって研修に励み、専門性を磨くとともに、豊かな人間性を身につけるように努める教師
→ 問題を整理し、解決することに傾注し、当事者意識で問題の解決にあたる。事後対応の迅速さ、的確さ大切で、初期対応で決まる。情報は速やかに正確に報告し、管理職から指導について指示を受ける

3 経営の基本方針

「生徒の利益を第一に考え、厳しさのなかにも温かさのある指導に努める。」

- (1) 小中学校の連携・協力を一層図り、9年間を見通した教育を推進する
小中一貫教育研究グループの大泉第二小学校・大泉南小学校と連携し、これまでの互いの学習観や、指導観、児童生徒について理解し、9年間を見通した指導方針のもとで行う学習指導・生活指導の充実を図る。
- (2) 基礎的・基本的な学力の定着を図り、学力の向上を目指す。
 - ・ 生徒理解に基づき計画的な授業を展開する中で、生徒の課題把握と課題解決に向けて生徒一人一人への指導援助を実施（質問教室・補充教室・考査前補充学習等を実施）
 - ・ 改善推進プランに基づき、学校全体として内容、指導方法について共通理解を図り、研究授業を通して教師の授業力を高める。
 - ・ 数学において少人数習熟度別授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。
 - ・ 教材研究、指導方法の工夫など授業の改善に努め、知らないことを知り、わからないことをわかった喜びや困難を乗り越えてやり遂げた達成感を生徒に実感させる。また、パソコン教室、電子黒板、モニターなどを活用した ICT 教育の推進していく。
 - ・ 授業規律を徹底し、生徒の学習態度や意欲を向上させていく。
 - ・ 家庭との連携をとり、評価の改善と家庭学習の定着に努める。また、生活の規律や遅刻など、忘れ物や授業の集中力など、家庭には子ども様子を詳しく情報提供することにより、保護者への協力も要請していく。
- (3) オリンピック・パラリンピック教育の推進、体力の向上・健康の保持増進
 - ・ アスリートとの交流やスポーツ体験を通して、障がい者スポーツへの理解を促進するとともに、スポーツに進んで取り組もうとする意欲を高めさせる。
 - ・ 新体力テストの結果を様々な教育活動に活用して体力の向上を図り、健康についての保持増進を推進する。また規則正しい生活習慣や食育指導を行い、適切な食習慣を主体的に身につけさせる。
- (4) 道徳教育の指導力を向上させ、心の教育を推進する
 - ・ 「特別の教科・道徳」の実施に向けて、学校全体で授業改善を図り質の高い授業を実施する。道徳教育推進教師が中心となり、人権課題を取り上げながら、全教師が協力して道徳の時間における指導方法を工夫し計画的に実施する。道徳授業地区公開講座を活用して、家庭や地域と意見交換することで、相互の思いや願いを理解し合い開かれた道徳教育・心の教育を推進する。
 - ・ 人権尊重の教育を基調に、差別や偏見を否定し、一人一人の生徒が大切にされる集団を作る。また、他を思いやることができる学年、学級作りを目指す。
- (5) 心豊かで思いやりのある心を持てる生徒を育てるためにも物的環境、人的環境の整美・充実に努める。
生徒の心的成長と学校の安定化を促す一貫性のある生活指導の方針と態度で指導にあたる。特に気持ちのよい挨拶や正しい言葉遣いができるよう、全教職員が率先垂範し、言語環境を整える。また、「環境の整美（人的な環境整美と物的な環境整美）」に重点的に取り組む。

- (6) 互いに支え合い、いじめが起こりにくい集団づくりにあたり、いじめを未然に防止するとともに、「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、組織的にいじめ問題への早期発見・早期対応を図る。
いじめ状況聞き取り調査を年間を通して月に1回実施し、絶えず状況を把握し、校内いじめ対策委員会で正しい情報の共有化を図り、指導にあたる。授業をはじめ学校行事や部活動など子どもに主体的に活動させ、活躍の場を与え、相互に支え合い高め合う集団を形成する。生徒に所属感をもたせ、自尊感情を高めることで、いじめが起こりにくい土壌をつくる
- (7) 信頼関係に基づいた生活指導を進めるとともに、教育相談を充実させ特別支援教育への対応を図る
日頃から担任を中心として生徒・保護者から安心して相談できる関係を築き、相談には組織的に丁寧かつ迅速に対応する。特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会を定期的に開き、正確に情報の共有化を図り、SCの意見を参考にしながら組織的に対応し関係諸機関と連携を図る。特別支援教室導入に向けた準備を行っていく。また、民生児童委員や関係機関（SSW等）との連絡を密にして学校不適応・不登校生たちの学校支援を進めていく。
- (8) 安全教育をより一層推進し、安全・安心な環境にする
「東京防災」、「不審者対応の手引き」および「地震対策の手引き」を活用し、分担を明確にして校内体制を構築する。避難拠点運営連絡会の協力を得ながら、総合的な学習の時間に生徒自身に防災意識や防災行動について気付かせ、災害に備える意識を高める。また、生徒、保護者、地域に学校の対応について周知徹底を図り、保護者には引き渡し方法や緊急一斉メール等の連絡訓練を通して保護者との連携を一層図る。また、避難拠点としての学校の役割を認識し、地域との連携体制を図る。
- (9) 教育予算を効果的に計画し、適切に執行する
特色ある教育活動の予算を有効に使い、多様な体験学習や地域の教育力の活用を図る。

4 実践に向けて重点目標と方策

項目	中期的目標と方策	今年度の重点目標と方策
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習や総合的な学習の時間など地域の人とかかわる体験を通じ、生き方指導の充実を図る。 ○読書活動を推進し、言語環境を整え、言語活動の充実を図る。 ◎小学校や石神井特別支援学校との連携や交流を図り、互いの学力観や指導観、児童生徒観について理解を深め9年間を見通した学習指導・生活指導等の充実を図る。 ◎学校行事と部活動には生徒を積極的に参加させ、個性を伸ばし、成就感、達成感をもたせ、集団への所属感や責任感を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動、体験活動を充実させて地域社会との関わりを深める。 ○朝の読書活動、学校図書館を活用した、調べ学習や読書を推進する。 ◎校区别協議会や授業等を通して、小学校との連携を一層深める。また、PTAも関わり石神井特別支援学校と生徒同士の共同及び交流を図る ◎生徒の自立性を伸ばすとともに、集団として協調の精神を育てる学校行事や部活動の工夫を行う。
学習指導 (教科指導)	<ul style="list-style-type: none"> ◎各教科で授業のねらいを明確にし、「わかる授業」「わからせる授業」を工夫し、個に応じた指導の充実を図りながら、基礎・基本の徹底と学ぶ意欲を高め、学力の定着・伸長を図る。 ◎家庭における学習習慣を確立するための指導を工夫し、保護者の理解と支援を要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎授業において、生徒に見通しをもたせ、教えるべきことは教え、考えさせることは考えさせる指導法の工夫・改善をする。 ◎落ち着いた授業環境を作るため授業規律を徹底する。 ◎少人数習熟度別授業において、基礎・基本の徹底と学力の伸長を図る。 ◎各教科において言語活動と課題解決的な学習の充実を図る。 ◎生徒理解に基づき計画的な授業を展開する中で、生徒の課題把握と課題解決に向けて、生徒一人一人への指導援助を実施（質問教室・補充学習・考査前補充学習等を実施）し、学力の定着を一層図る。 ◎学習指導要領を踏まえ、学習の過程を大切にしたい指導の改善に生かす評価を行うとともに、評価資料を基に適切な評価・評定を行い、保護者にきちんと説明できるようにする。 ◎生徒や保護者に家庭学習の手引きを示すなどして、各教科・学年で家庭学習の習慣を身に付けさせる。

<p>学習指導 (道徳)</p> <p>〈総合的な学習の時間〉</p>	<p>◎豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。</p> <p>○体験的な学習活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育成し、学び方やものの考え方を身に付けさせる。</p>	<p>◎道徳の時間を確保し、道徳教育推進教師を中心に、「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図る。</p> <p>○活動を通して何が身に付いたのかを理解させるために振り返りを大切にする。</p>
<p>生活指導</p> <p>進路指導</p>	<p>◎生徒と向き合い、寄り添う生活指導の充実</p> <p>◎時間を守らせ、挨拶をしっかりと行わせるなど、基本的な生活習慣の確立を図り、生徒の規範意識と社会性を高める。</p> <p>◎教育相談を充実させ、「いじめ・不登校」の早期発見・早期対応を図り、家庭との連携を強化し、信頼関係を構築するとともに、関係諸機関と連携を図る。</p> <p>○生徒に自己理解を深めさせ、体験活動を充実し望ましい職業観をはぐくむキャリア教育を推進する。</p> <p>○生徒に卒業後の進路を主体的に選択させ、将来の生活において自己実現を図ろうとする態度を育てる</p> <p>◎責任執行制を導入し、組織的な学校運営と決裁の迅速化を図る。</p> <p>◎教職員一人一人が使命と職責を深く自覚し、サービスの厳正に務める</p> <p>◎組織的に職務を遂行するために、OJTを効果的に実践する</p> <p>◎学年間・分掌間の連携を密にし、学校全体の組織力を強化する。</p> <p>○学校評価・学校関係者評価を分析し、適切な学校評価を行う。</p> <p>◎環境美化に努め、安全で落ち着いた学習環境を整備する</p> <p>◎「不審者対応の手引き」および「地震対策の手引き」を活用し、学校の具体的な対応について生徒、保護者、地域に伝え、安全教育をより一層推進する</p>	<p>◎日常場面、休み時間などにおいて、生徒のそばにいて向き合い、寄り添える体制を作る。</p> <p>◎あらゆる場面で教師が率先垂範し、生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>◎いじめ実態調査を月1回実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p> <p>◎登校支援シート活用をはかるなどして、いじめ・不登校等にきめ細かく組織的・効果的に対応する</p> <p>○生徒一人一人との面談等を充実し、事故の進路の実現を目指す力をつける。また、他者の個性を尊重し自己の個性を發揮しながら職場体験等、人とかかわり望ましい勤労観や職業観を身に付けさせ、生き方指導の充実を図る</p> <p>○3年間を見通した進路指導計画を立案し、組織的・計画的に実施する(進路便りの発行等)</p> <p>余裕を持って文書の起案を行い、会議の精選により生徒指導時間を確保する。各主幹及び主任が責任を持ち、部会の充実と活性化を図り、進行管理の徹底を図る。</p> <p>◎資料を活用しながら研修を実施し倫理観の醸成を図る。日常的に教職員の人間関係に留意し、メンタルヘルズに配慮する。気になる言動への指導・対応を図り、サービス規律を確保する。</p> <p>○主幹・主任教諭を中心に、若手教員の育成に積極的にあたる。</p> <p>○主幹や主任および分掌間の各教員の役割を明確にし、企画委員会を通して、学年間・分掌間で課題を明確にし解決に向けて協働的な取り組みを行う。</p> <p>○学校評議員会の機能の充実と、学校関係者評価を分析して、保護者・地域への説明責任を果たす。</p> <p>◎日常の清掃活動の充実や、掲示物の点検に留意し、教育環境を整える。</p> <p>◎様々な訓練や情報機器を活用して防災、防犯意識を高めさせる。</p>
<p>特別活動</p>	<p>○学校行事を通して、一人一人の生徒を主体的に活動させる。豊かな感性や創造力をはぐくむ。</p>	<p>○文化的・体育的行事の実行委員会を中心に、ねらいを明確にし、あり方を見直すとともに、生徒を主体的に運営に参加させ、充実感と達成感を与える。</p> <p>◎行事の後に互いを認め合う活動として「ハートフル活動」を取り入れる。</p>
<p>研究・研修</p>	<p>◎授業力の向上を目指し、授業研究を推進する。</p> <p>◎生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う</p> <p>○特別支援教育生徒理解に関する研修を充実させる</p>	<p>◎新学習指導要領の具体化を図り、一斉に教科ごとの研究授業・協議会をもち、互いに日々の実践の成果を共有化し、指導に活かす。</p> <p>○区中研の研修等に積極的に参加し、指導法の工夫・改善を図り、日々の実践に生かす。</p> <p>○校内研修のテーマは、生徒の実態を踏まえ、教育課題を見据えて、自己研鑽が高まる授業研究・事例研究・講演を設定する。</p> <p>◎特別支援教育の推進を図る研修会や事例の研修会を実施し、生徒理解を深める。</p>